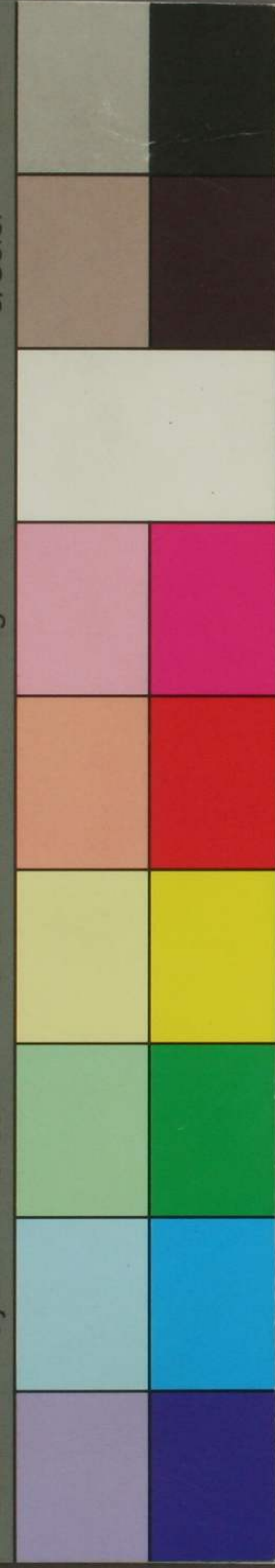
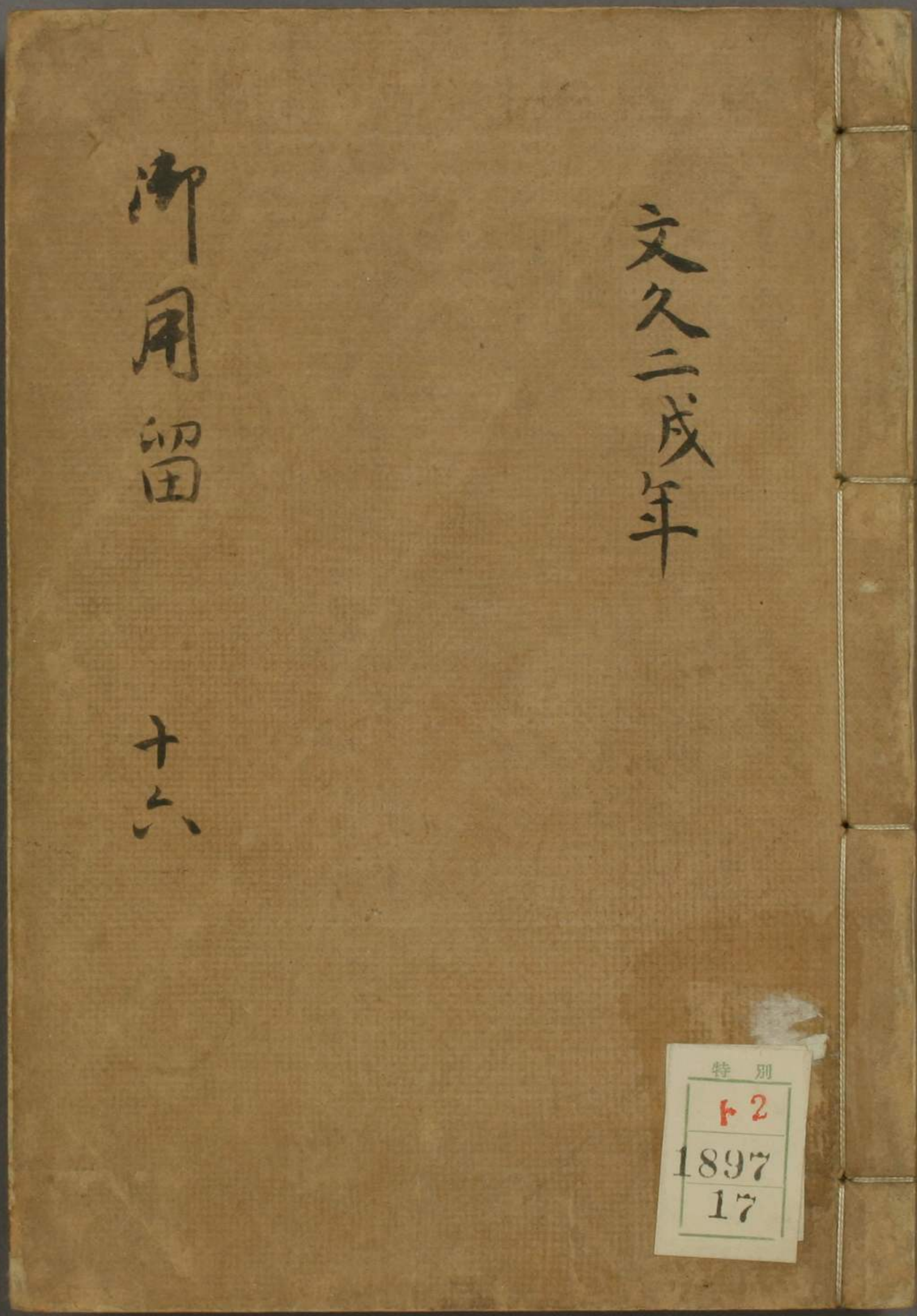


KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



御用留

十六

文久二年

特別
F2
1897
17



明
清
卷
17
4951

文
久二成平
少用名

和
是
百
以
舟
是
二
系

明
世
二
十二
日
内
向
此
氏
寄
籍

十六

門 卜 2
 1897
 17

文久二成年 新田 田

一 百後少種
 三 朝以多子
 五 子川地
 七 秋作
 九 秋
 十一 地
 十三 子



二 町地代
 四 秋
 六 子
 八 秋作
 十 秋
 十二 地
 十四 子



一 目錄
二 卷之二
三 卷之三

文之二

二 卷之二
三 卷之三



文久二年

正月七日

西宮

林

...

...

...

...

...

文久二年 戌年

一 白紙紙未用
正月七日 戌年

折紙

林上學子

別紙

正月七日

別紙

白紙

右官位紙

澤地紋并後少袖

右前同前

此の言事申すに

白結少袖着申すは後少袖合書に三所以上
と相成り申すは着申す申す申す申す申す
之位以上申す申す申す申す申す申す
着申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す

方々を結ぶに申すは後少袖合書に三所以上
申す申す申す申す申す申す申す
澤地紋并後少袖合書に三所以上
申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す

相成事と事なる此後ゆゑの事也

三月

時次郎

別紙

別紙一 白後山神と伊弉利命
の事と容易に用難ぬ事と相見て
是代家にて代々其事と宗家の事と
に白あやの山神の事一 後素戔の
事と相見ると下と相見ると

事ある事なく事ある事なく事ある事なく
いふ所の事一 対する事と相見ると
山神の方に用ゆる事と相見ると
只の人と相見ると事と相見ると白あ
やの事と相見ると事と相見ると
いふ事と相見ると事と相見ると
いふ事と相見ると事と相見ると
いふ事と相見ると事と相見ると

二河内成金後文
一月十日八日

坊次り後

林大學以

不答同稿字占別紙一通

ハニテ其後ハリ切リハ終ニシテハ中細キ
以テハ人ノ格別ニ決テ其用ニ及ルルニ至
存ハル者ニ至ルハ中細キハハ其用ニ至
云々ハ其用ニ至ルハ中細キハハ其用ニ至
其用ニ至ルハ中細キハハ其用ニ至

坊次り後

一月十日

坊次り後

坊次り後

不答同稿字

坊次り後

坊次り後
一月十日

坊次り後

美田之學子流... 此所中... 以上

二月六日

林園書院

林園書院

林園書院

本館... 此所... 以上

林園書院

品川洋信... 此所... 以上

費... 此所... 以上

此所... 以上

此所... 以上

此所... 以上

少宮川... 此所... 以上

六
二月十九日

抄

振大書院

抄の目録
別紙一通
別紙一通
別紙一通

二月十九日

抄

河内
河内

江
和
抄

二月十九日

抄

抄

河舟行記
信長

七 秋作
一 寺田好誠二舟中記文部上二日午の舟中
二十日舟中記文部上二日午の舟中

八 秋作
二月十日舟中記文部上

舟中記

舟中記文部上二日午の舟中

舟中記文部上二日午の舟中

舟中記文部上二日午の舟中
舟中記文部上二日午の舟中
舟中記文部上二日午の舟中

二月十日

九 秋作
二月十日舟中記文部上二日午の舟中
舟中記文部上二日午の舟中

高野山行記のりりり

衣衣衣衣衣衣衣

ありありありあり

平次源次

上名御高家

少康寺

口行

小次久

いんげん

定常道三

元

二月

二月

行以部

十一月十日

二月十日

林上寺

高野山行記のりりり

二月十日

二月十日

高野山行記のりりり

とて

沖姥礼相海々乃有後既某廿一日廿二日所能
者之見物乃御世生百出為右法多改法為
沃布衣以之し由後人且又

洲自見以之役人乃公少為死少人得之儒
右醫師一西友在右寺之白布時之也 時
御行下寸之乃之御中在右寺之白布時之也
一亦出少善法之而之目以法後之少人少斗之

出下り

一右の礼之儀を奉るに廿二日 老中出立を為す
二日 善法を御中へ之りおせり
ありとせたりおせり

二日

二日 寺々へ御中へ出立

御中へ出立

林右衛門

此後

平山命の御立上りなる御法度依り此後御事
に上

成二月

乃以中一

十三 新皇御下
一二月廿七日 皇御所

乃以中一

乃以中一

心子紙御書上之御事 尚書御書上之御事
御事御書上之御事 御事御書上之御事
御事御書上之御事 御事御書上之御事
御事御書上之御事 御事御書上之御事

二月廿七日

乃以中一

乃以中一

心子紙御書上之御事 尚書御書上之御事
御事御書上之御事 御事御書上之御事
御事御書上之御事 御事御書上之御事
御事御書上之御事 御事御書上之御事

二月廿七日

十三 乃以中一
一二月廿七日 乃以中一

乃以中一 乃以中一 乃以中一

沖城の可き世を定むる事以て其の書は之に
依りて其の事の上

二月三日

林出學以

取以り也

取以り也

林出學以

沖城の可き世を定むる事以て其の書は之に

依りて其の事の上

沖城の可き世を定むる事以て其の書は之に

二月三日

取以り也

林出學以

林出學以

取以り也

沖城の可き世を定むる事以て其の書は之に

依りて其の事の上

沖城の可き世を定むる事以て其の書は之に

右一曰石川能登等始云人曰所云石

地云云云

十五 正月十五日 正月十五日 正月十五日

古之類也

初後下冷紅云云云云云云云云云云

初後下冷紅云云云云云云云云云云

正月十五日

正月十五日

初後下冷紅云云云云云云云云云云

古之類也

古之類也

初後下冷紅云云云云云云云云云云

初後下冷紅云云云云云云云云云云

初後下冷紅云云云云云云云云云云

初後下冷紅云云云云云云云云云云

初後下冷紅云云云云云云云云云云

正月十五日

正月十五日

一 四日可少解方其國り此而此...
 用之...
 此...
 日...
 國...
 本...

此...
 相...
 此...
 相...
 此...
 相...
 此...
 相...

初... 金地... 相

正法部

二十
二月廿六日

正法部

正法部

尚... 正法部

正法部... 正法部

正法部

二十
二月廿六日

正法部

一 福物寺の物庫に在る陽明の遺物に於て新撰
七言の詩句和字所の母書と云ふ地蔵菩薩
の傳所にて和字所の如くして陽明の如く
物庫に在る陽明の遺物に於て信託す所
乃心山下寺也

一 和字所書物に別紙に在る物に於て新撰一
万巻の如くして和字所書物に於て和字所
和字所の分細なるものありて和字所書

物に於て毎年招立の如くして和字所
九年に二十四年と云ふ年を以て和字所書物
所に於て和字所書物に於て和字所
所に於て和字所書物に於て和字所
在りて和字所書物に於て和字所

一 和字所の母書と云ふ序に於て和字所書物
和字所書物に於て和字所書物に於て和字所
和字所書物に於て和字所書物に於て和字所



来りしつゝふあまの夜あまの月見を
あまの月見を
あまの月見を

二月

あまの月見を

あまの月見を

あまの月見を

あまの月見を
あまの月見を
あまの月見を

あまの月見を

二月廿五日

是より末五年四月所用者
次前指系より利没原より元
日以依り推考思ふ

新田番

之好山城多能

和学所出没頭云

小島貞清云

成歳云云

右様方命又通方命以當年七歳或云
頭云九歳云云後九年
未妨云云在九年
教務仕
牙好以備不

轉從新處言為所得在也老年之及以事在得者而心
新舊古月以者乃一從重之因旋以故中以此時以物
而一以物者之古者亦能既既以物新以故中物與物
交既強者乃一以者以此既之於私心此後有從
守新之也

六月

小母孫去之印

一六日物之西達

坊法中極

能者生者也
若子定

我之新達之也西而一以之者中一之也

六月物

別紙

黃居之殿以海古書行字

明後報之例月之也禮年一以同此既一之也物也

六月物

一七自七方也禮也也新也 信 月入底方通之也

今七自也禮也也平起之能也物也腹痛水浮經也

江の守平の御成程出立申上り候へ此後申上り申上り

七月七日

巧治郎

同日返書

巧治郎様

此書を在り
前承定り

小紙有見候様と判成候御書申上り申上り
此書以て御成程申上り候へ此後申上り申上り

二上

七月七日

六

一十七日午の出道

巧治郎様

林右衛門

此書を在り候様と判成候御書申上り申上り

三上

七月十日

市川一徳様御成程申上り申上り

字

宛

徳川刑部公啟

思召之儀一揚家再取續也

作出一揚額指方るる也又

殿意之儀は 作色之儀以後見也

作印之儀

向ふる一揚違ふ中

々々

歳之意之儀は

作色之儀は 杉平春藏の御中

裁儀之

作印之儀

作印之儀向ふる一揚違ふ中

一十月十日何日後之儀不違

坊之儀

何日後之儀

小笠原之儀は 別裁之儀は 通し趣方及西道

違ふ中

一十月十日

字

何日後之儀

小笠原之儀

和名傳信不

坊波郎 寄来

主人

坊波郎 全に後より明午十二時迄は山後不

可なりと申過達仕度仕極なりと上

七月十日

坊波郎 申上り申下り申上り

小笠原氏より坊波郎申上り申下り申上り

より過達仕度仕極なりと申上り申下り申上り

一 七月十日 小笠原氏より坊波郎申上り

坊波郎 申上り申下り申上り
坊波郎 申上り申下り申上り

七月十日

坊波郎 申上り申下り申上り

坊波郎 申上り申下り申上り

坊波郎 申上り申下り申上り

坊波郎 申上り申下り申上り

改方... 七月十一日

七月十一日

日通業

抄心... 何有... 世宗...

塘...

四... 七月十一日

井

七月十一日

一... 七月十一日... 和... 功... 宗... 七...

時

一 四〇一四〇〇〇〇〇〇〇

一 師見記

明曆元年分

寛政九年と

合式百七後部年

右安政六年十一月廿七日午時生後由友成後令後成

内書院高以
高竹久水之見台位

胎部 右内之位

中務中

名簿中月分至内師家

高書

出仕位者以母屋名取仕位

康名原中位

廿五

一月廿五日酉分出達

坊次中及

林 大書次
林 圖書次

坊敷中席

右所用一紙書台の寸方四寸

所藏の二冊を正分造りしを成し以て書付し作後不_三年
P造り

六月廿二日

林圖書次
林古書次

塙水舟次

於此に千餘冊附録し之を正分造りし

同日後

塙教吉席

古所用し後年於此に四冊
所藏の二冊を正分造りしを成し以て書付し作後不_三年
造りしを成し以て書付し作後不_三年

六月廿二日

塙水舟次

林古書次

林圖書次

古の所蔵の二冊を正分造りしを成し以て書付し作後不_三年
造りしを成し以て書付し作後不_三年

物の内接人接抄等々起於脚弱向共向等
以作函

別段通字造り等類は去る由違

是

十人候
和号傳信不附
次郎候

和号傳信不附は用ゑる旨

塙政吉郎

席へ候士十人候又此中次等一〇人候得申事

廻物名札

作給ふ所候
和号不附見合
以作付物候旨
指人接抄以下
指人接抄以下

和号不附

塙政吉郎

和号傳信不附
見合は作付物内
指人接抄以下等
指人接抄以下

和号不附

塙政吉郎

同日限不令海分由違

塙政吉郎

其元以交和号傳信不附見合は
作付物内礼席一歳年始に綱を首向月次左

父波即次と云ふ所礼へよと云の能成お向と云何
こ通の心得多無記と備成の書首と云の作後と云
け版へ通の

廿七
一月廿九日の西月燈后より通達

坊孫右郎様

於事と云云
並奉定也

心手紙の上と云ふ所此は法海と云 作れと云
白浪経母の所於今と云は通のこは成の此段得

此言の此の在の上

一月廿九日

同通書

於事と云云
並奉定也

坊孫右郎

心手紙の上と云ふ所此は法海と云 作れと云
白浪経母の所於今と云は通のこは成の此段得
是れ此段の所也

二月廿九日

一 聖明之世經年二收四海之民如後元年

是

一 古事終

三 通

一 至後經年

二 收

右 德之至矣

二月廿九日

三月廿九日

林大子以
利不

二月廿九日 山城國員村 物部收年

何子校 生
小舟 厚 方 行 處
阿 波 中 左

高 山 寺
四月廿九日

武家名目抄 內藏名目 山角 守 山 保 之 名 年 色
以 智 山 後 方 一 山 松 山 後 方 一 山 中 書 一 山 之 採 取 一
以 今 昔 傳 一 山 之 書 官 為 一 山 之 後 方 一 山 之 採 取 一

二月廿九日

同返書

武家名目抄之通職名於御用等之上松之下
承知等而後目錄書付之通職今之松七冊等
上之通職等自之成下の上

一月

同列

武家名目抄

自一

五七

廿七冊

右書
右書抄

自一

五七

三十冊

右書抄

右通

一月

廿九

一月

右書抄

林圖書

平司郎平

六通山在...

二月

坊次郎

一 二月廿五日 坊次郎

坊次郎

坊次郎

坊次郎

坊次郎

二月廿五日

一 二月廿五日 坊次郎

坊次郎

坊次郎

坊次郎

二月廿五日

一 二月廿五日 坊次郎

吾道尚早而吾道未成也

九月七日

字

未二月

河上流の石松の石 作石の寺の流石の石松の石
の流石の石松の石

但常の石松の石松の石

一石松の石松の石松の石

但石松の石松の石松の石

老年の石松の石松の石

一石松の石松の石松の石

石松の石松の石松の石

九月七日

五二

一九月七日の石松の石松の石

父松の石松の石松の石
石松の石松の石松の石

青上善の正清齋は仕のり別段の徳の正善齋
以上

九月所

五

九月所の以向の致る所抄高の他

秋是迄の月日多秋の撰出の事此迄の事は正徳
抄原の徳の正善齋

九月所

正徳五年秋の月日西の向の撰出の事は正徳

正徳

嘯敬大席

五

日限不取の以向の致る

此の事切也

城

御免

作付の事

所祝儀本は正徳は西の老申の年迄の巡礼有
首自然退籍の故の事信持の事力供等との事
之の事通ねる均極田和回念の場先所門神の事

松の皮

衣の紐

九月

一 十月九日 河津渡舟の文通

いふ武替と仕の松を私儀に序と九日泊先仕の明報
あつた末とこの仕の松をわが合此後各柳とすまふこと

十月九日

一 十月十日 河津渡舟 後寺所抄末

山花

坊敬去所

山花

九月報の武替見多那 傳書中村の 奈是北 昨水内
若し依り此後の中よりと

十月十日

一 十月十日 河津渡舟

坊水月夜
坊水月夜

林古夢次

公方極所麻痺は花の身万何所獲持以て四方
想出依て事

此平腹多うはくはく

本和泉寺殿の後に書ける字尚書目付の達乎此

後達乎

十月廿二日

十月廿二日の函の達

坊水月夜

林古夢次

千代末月四折の函に 作書はる病言年合本を
しるはる聖阿まう、松浦に三空相年申さるる
達乎夢さるる越は此後達乎上

十月廿二日

同少後

林古夢次

坊水月夜

一十二月三日

修致書

林古學次

此年春鹿川連平者... 此後... 四六...

十二月三日

聖學... 此後... 四六...

此後又...

三...

見

此後...

...

林古學次... 見...

右錄古自代和字稱後而後是留之印升以書西
悅尚成以月分信也移物名以印以右信以印以信之
未以重列自形以右信以印以信之

文又二成
月

去款
①

玄蕃
①

宿重年
出西云

信信取在在在

之西之移在在在

主外至信於移在在在

林去字以標

之西之移在在

出西云

信信取在在在

之西之移在在

三日

信信取在在

出西云

林去字以標

王作の習の他出久

心使

修家子卿

此の書は成るに由りて之を以て其の意を以て
書す所は私物なり其意を以て其の意を以て
其の意を以て其の意を以て其の意を以て
其の意を以て其の意を以て其の意を以て

十一日

修家子卿

日少海子出久

此の書は成るに由りて之を以て其の意を以て
書す所は私物なり其意を以て其の意を以て

修家子卿

此の書は成るに由りて之を以て其の意を以て
書す所は私物なり其意を以て其の意を以て
其の意を以て其の意を以て其の意を以て
其の意を以て其の意を以て其の意を以て

十一日

日返書

皇胤绍运录

同六十一 上中下

法门海清

同六十一 上中下

百寮训要抄

同七十二

女房官品

同七十三

金玉堂中抄

同七十六

法曹至要抄

同七十七 上中下

内裏式

同七十九

雪园抄

同八十二 上下

年中行支秘抄

同八十六 上下

永仁沙汰任用途礼

同九十二

文安沙汰任用途图

同上

大皇冠礼部類礼

同九十七

上心故安典

同一百

作法石实

同上

羽林要秘抄

同百二

内局柱礎抄

同百七

晴中令款類記

同二百一十二

貞祐六年中殿中令記

同上

王基親在右將記

同二百一十一

河節記

同上

四條流病下書

同二百一十

厨吏類記

同二百一十四

或來調味石突

同二百一十六

大草亦能少書

同二百一十七

善度院殿住持首金書

同四百五

寶道院殿住持軍堂下記

同上

善度院殿所方笑書

同上

祇律尸次記

同四百七

祇園寺所見物所成記

同四百九

供立日記

同四百十

善度中四記

同四百十四

矢詞記

同四百十九

左記

遺章在案抄

田中抄

類聚雜抄

大谷山裝本同夏

大谷界抄

大谷雜夏

宣平所送儀

四四四四

四四四十二 上下

四四四十二 上下

四四四十二 上中下

四四四十二

同上

同上

四四四十二

銀運要畧

公法公記

西之記

北山抄

位置書式

以上

律疏

金法成恩与加抄

四四四七

一本

十三卷

十卷

職事抄

新儀式

享德二年時以鞠記

馬具寸法記

慶長三所湯飯日記

武吉御覽記

全集解

全三行

衣飾書

吉市若用抄

吉市若用抄文附

達雲源

勅撰和訓

四禮雜記

右後部上時有也年、吉市若用抄又平記、

吉市若用抄又平記、

一 吉市若用抄

吉市若用抄

吉市若用抄

此の如き書信は村の毎口毎十町用子に
集るに代りて其趣は松河谷に於て一
と上

十二月十九日

同日羽後府と又通書信の事

松河谷の事
松河谷の事

此の如き書信は村の毎口毎十町用子に
集るに代りて其趣は松河谷に於て一
と上

此の如き書信は村の毎口毎十町用子に
集るに代りて其趣は松河谷に於て一
と上

十二月十九日

十二月廿一日

松河谷の事
松河谷の事
松河谷の事

此の如き書信は村の毎口毎十町用子に
集るに代りて其趣は松河谷に於て一
と上

十二月十九日

十二月廿九日

同日書

十二月廿八日

啟申服少神麻上下是角の故也

一 中後三夜の分達 十二月廿九日

坊次郎

少主人牛松

以日成致致少神麻上下是角の故也

廿九日

官致

坊次郎

少主人牛松

手山文三郎

成申分り少神麻上下是角の故也

少主人牛松

十二月廿九日

坊次郎

一 同日廿九夜不意に夜日神麻上下是角の故也

